

2-17. 混合油の粘度計算図表について (10) 永井雄三郎, ○鈴木仁藏。混合重質油の粘度を予測する計算図表を作成し, 従来の各種図表と比較検討した結果につき述べる。

2-18. 燃料化合物蒸気の着火おくれ (15) 山崎毅六, ○加藤芳雄。燃料化合物の蒸気と空気との混合気を燃焼室に送り, 混合気の着火おくれを測定し, 燃焼室温度と着火おくれとの関係をもとめた。

2-19. 燃料噴霧の点火性 (15) ○飯沼一男, 山崎毅六。液体燃料を大気中に噴射して火花点火する場合の点火性を調べ, 燃料の諸性質が点火性に及ぼす影響を論ずる。

2-20. 循環流通法による炭化水素油の酸化 (15) ○永田洋文, 山崎毅六。タービン油, 絶縁油等の低温, 常圧における酸化をガラスポンプを用いる流通法によつて行い, 静的方法による結果と比較する。

第2日 9月26日(金) 9.00~12.00

物 理 化 学 (II)

2-21. 近紫外部吸収スペクトルによる水素結合の研究——フェノールと 2, 3 のプロトンアクセプターとの間の水素結合の強さについて (15) ○長倉三郎, 峯岸安津子。フェノールとジオキサン, 酢酸メチルを始め 2, 3 のプロトンアクセプターとの間の水素結合の強さを測定した結果について説明する。

2-22. ベンズキノン及びナフトキノンの双極子能率と吸収スペクトルについて (15) ○久保山昭, 長倉三郎。キノン類化合物の吸収スペクトル及び双極子能率を測定し, そのK電子状態と関係して考察した。

2-23. トリクロロ醋酸の重水素化合物の赤外線吸収 (15) 倉谷健治。酸の OH 変角振動による吸収帯を, CH 基を全く含まないトリクロロ醋酸を例にとつて考察した。

2-24. ペンタクロロフェノールの重水素化合物の赤外線吸収 (15) 倉谷健治。ペンタクロロフェノールの OH 変角振動について考察し, 第 I 報と同様 C-O 伸縮振動と強く相互作用を及ぼしあつてゐることをみた。

2-25. 次亜塩素酸第三ブチルの双極子能率 (10) 八角正士, ○白井道雄。次亜塩素酸第三ブチルの双極子能率を測定し, -O-Cl 結合がイオン性の強い事を結論した。

2-26. 第三ブチルアルコールの固態及び液態に於ける透電率 (12) ○八角正士, 白井道雄。第三ブチルアルコールの透電率を固態及び液態で測定し, 分子構造, 結晶構造の立場から論ずる。

2-27. 固態及び液態に於けるエタンの塩素誘導体の透電率について (15) ○八角正士, 白井道雄。エタンの塩素誘導体の数種について, 固態及び液態に於て透電率を測定し, 分子内廻転の立場から論ずる。

2-28. ベンズアルデヒドのポーラログラフ (15) 田中信行, ○左右田礼典。有機物のポーラログラフの一つとしてベンズアルデヒドについて二三の測定を行つた。その結果から一応その機構を検討してみた。

13.00~

生 物 化 学

2-29. 植物体内におけるストロンチウムの分布 (15) 木村健二郎, ○浅利民彌。稻, 粟の根, 茎, 葉, 実につきストロンチウム含量を見, 根に濃縮されることを指摘し, また稻にストロンチウムを与えた実験結果と比較する。

2-30. 回分式逆分溜塔及びその応用 (10) 田村孝章。重沸点成分から先に順次に取出す型の分溜塔を試作したのでその大要と, 重水, オルトキシロールなどの分離に応用した例をのべる。

2-31. 自製フラクション・コレクターによるアミノ酸類の分析 (15) 安藤鋭郎, ○石井信一, 田村孝章。自製フラクション・コレクターを使用して, その性能及びイオン交換体によるアミノ酸類の分離定量についての諸条件をしらべた。

2-32. DNP-法によるプロタミンの研究 (15) 安藤鋭郎, ○橋本千恵子。DNP-プロタミン類の吸収スペクトルから分子量の算出を試み, 更にその加水分解産物をしらべて, 既報のものと比較した。

2-33. クルペインの部分水解 (15) ○岩井浩一, 安藤鋭郎。クルペイン分子中のアミノ酸の結合順序を知るため, 部分的に加水分解して生成す